

The TENDAI journal

令和8 (2026) 年1月1日 木曜日
(毎月1日発行) 1部80円 (消費税込・送料別)

天台ジャーナル



広報天台

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 坂本 圭司
〒520-0113大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：t-press@tendai.or.jp

菩薩行の実践を



天台座主 藤 光賢

皆々さまにおかれましては、良いお年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は年が改まって早々に大樹孝啓第二百五十八世天台座主猊下がご譲職の意を示され、図らずも第二百五十九世の法脈を継承し、天台座主の猊座を引き継ぐこととなりました。二月の上任以来、御拝堂式を経て六月十日の傳燈相承式を皆さまのおかげをもちまして魔事なく勤めさせていただきました。それに加え、御修法、比叡山宗教サミット三十八周年「世界平和祈り

の集い」などの諸行事、日吉大社、平安神宮、八坂神社、北野天満宮、宇佐神宮で世界の平安を願い山上山下にて神仏に祈りを捧げましたことは感激の極みでございました。また十二月には、中国天台山国清講寺にて奉修されました天台大師入山一千四百五十年記念法要に使節団を派遣できましたことは、高祖大師に報恩心を示し、中国仏教界との絆を更に深めることとなりました。

不安定化を受けて平和への貢献を模索する一年であったかと存じます。比叡山におきましても、戦争の記憶を次世代に継承する法要として八月一日に「戦後八十年戦没者慰霊並びに世界平和祈願法要」を奉修。四日の比叡山宗教サミット三十八周年「世界平和祈りの集い」では、ノーベル平和賞を受賞された日本原水爆被害者団体協議会の田中照巳代表委員をお招きし、講演をいただきました。ご自身が体験された被爆証言から、原爆被害の実相、戦争がいかに非人道的で悲惨さをもたらすものであるかを学び、次世代を担う若者に平和と人を愛する心を育む教育の必要性をご提言たまわりました。核兵器の脅威から人類を守るためには、廃絶しかないことを改めて考える貴重な機会になったかと存じます。

世界では、今もなお戦争や紛争が後を絶ちません。利害や歴史的な対立、宗教の違い、差別や格差など、様々な要因を背景とした暴力が蔓延しているのが現状です。また気候変動による自然災害など人びとの不安が高まっています。その緊張が高まる中において、大阪・関西万博の開催が国や地域、宗教、文化の枠を超えて交流を深め、国民の気持ちを一いつにできたことは大変喜ばしい出来事でした。この平和の祭典に、伝教大師最澄一二〇〇年魅力交流委員会として七月二十四日の滋賀県デイに参加いたし、不滅の法灯を奉安し、平和と人びとの安寧を願う天台声明が奉納されました。世界の英知が集まった万博会場から、宗祖伝教大師の御誓願である「仏国土建設」の願い、そして一千二百年続く天台宗と比叡山延暦寺の平和への祈りが発信できましたことは、真に尊い浄行であったと存じます。

比叡山に一乗止観院を建立し、天台宗を開宗された宗祖伝教大師の本義は、仏性の開発と仏国土の建設であります。そして法華一乗の教法をもって道心ある人びとで満ちる世界を望まれました。そのみ心を表す「不滅の法灯」が奉安されておりますのが総本堂根本中堂であります。歴代祖師方に倣い、今を生きる私たち宗徒も、檀信徒と共に報恩の志を次代に繋げなければなりません。宗祖の願いが込められた道場を後世に継承すべく修復事業が魔事なく円成するよう、ご法助たまわりたくお願い申し上げます。

皆々さまにおかれましては、宗祖伝教大師の「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」のみ教えを常に心に保ち、真の平和が訪れますよう菩薩行を実践くださいますことをお願いいたします。

被災地の早期復興と本年が平和で実り多い年であることを念じつつ新年のご挨拶いたします。

迎春

令和八年元旦